



はあとくん

第56号
令和5年3月1日

発行／倉敷市水島中学校区人権学習推進委員会 事務局／倉敷市水島公民館 倉敷市水島北幸町1-2 Tel.086-444-2541

◆人権学習推進委員・事務局員等研修会 1月28日(土) 【人権課題：様々な人権をめぐる課題】

テーマ 『今日から使える! イライラ・怒りの対処法 ～アンガーマネージメントで幸せに～』

岡山コミュニケーション研修講演企画 代表 稲田尚久氏

今年度の研修では、怒りの感情の正体や衝動のコントロールの仕方について、具体的な事例をもとに分かりやすく話していただきました。稲田氏の軽妙な話術も手伝ってとても和やかな雰囲気での研修となりました。グループワークでは、それぞれの体験を話したり、水島中学校生徒の若い意見を聞いたり、とても充実した活動ができました。



参加者の感想

- ☆「怒り」を客観的に様々な視点で説明されたので、具体的にとらえることができたと同時に、実際の生活の中で実践してみようという気持ちが芽生えてきました。
- ★稲田先生のお話を聞き、いつも父や母、友達に怒っていることを減らすようにしてみようと思いました。
- ★普段よくイライラするので、温度計を思い浮かべて、自分のことを客観的に見て考えていきたいと思いました。

★は中学生の感想

◆ふれあい・交流活動

【人権課題：子ども、高齢者】

小ざくら保育園 秋まつり 10月14日(金) ♥ のぞみ保育園 落ち葉まつり 11月11日(金)

今年度は、2つの保育園で、それぞれ年長クラスの園児と交流しました。小ざくら保育園の秋祭りでは、子どもたちと一緒にみこしを引っ張り、お店屋さんごっこに参加しました。

のぞみ保育園の落ち葉まつりでは、落ち葉や木の実を使ったお面や楽器作りに参加し、歌や合奏の発表を参観しました。

参加者からは「久しぶりの子どもたちとの活動で楽しかった。」「若い人から元気をもらった。」「子どもたちが伸び伸びと活動している様子を見てうれしくなった。」などの感想が聞かれました。



小ざくら保育園 秋祭り



のぞみ保育園 落ち葉まつり

◆人権週間 12月4日(日)～10日(土)

人権週間を含む12月4日(日)～11日(日)の期間、水島公民館展示室で、小中学生の人権ポスター・標語や保育園・幼稚園・認定こども園の園児の「はあとくん」ぬり絵を展示しました。

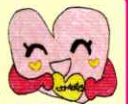
ポスター19点、標語42点、ぬり絵282点の作品が集まり、地域の方や親子連れ等、たくさんの皆さんに観覧していただきました。



◆人権グッズを作りました!

今年度の人権啓発グッズとして、「エコバッグ」と「救急絆創膏」を作成しました。バッグは、A4サイズで、環境に配慮した木綿製です。中央にマスコットキャラクターの「はあとくん」をデザインしています。絆創膏は、カバーに小中学生の人権ポスター・標語を印刷しました。

総会でお披露目します。



◆心を豊かに彩る講座1 10月29日(土) 【人権課題：様々な人権をめぐる課題】

「落語を愉しもう～江戸落語から学ぶ～」

しょうかいていきっす

岡山おもれえ会 副会長 笑皆亭 口口氏



口口師匠の「落語は人と人が接し合って成り立つ芸」という話は、まさに家庭や地域社会での人間関係づくりのヒントを含んでいました。「時そば」「八五郎出世」の演目は、いずれも人と人との関わり方や人の優しさ・温かさについて学ぶことができる内容でした。また、笑うことができる環境の大切さについても考えさせられました。



長唄三味線の松永鉄四さんも参加してくださいました。

参加者の感想

♪八五郎がお屋敷に行った時の偉い人たちとのやり取りがとても楽しかったです。その中でお母さんに孫を見せてやりたいという親子愛が見られ、心温まりました。

♪落語を初めて聞きました。江戸落語を通して、人情や思いやりなど人と人とのつながりを学ぶことができました。

◆心を豊かに彩る講座2 11月25日(金) 【人権課題：子ども】

「子どもたちの『つばさ』を奪わないために」

一般社団法人 子どもソーシャルワークセンターつばさ 代表理事 紀奈那氏



紀氏は、大学時代にトワイライトホームの活動に出会ったことがきっかけとなり、様々な困難を抱える子どもたちに手を差し伸べる活動を続けておられます。具体的な事例を通し、「子どもも親も、一人ぼっちにしない」ためには、地域社会全体で、時間をかけて取り組むことが必要だと教えていただきました。同時に、子どもの幸せはそのまま大人の幸せにつながるということも学びました。

参加者の感想

♡子どもたちの困りに目を向けていち早く取り組んでいる方がおられることを嬉しく思いました。ぜひ、末永く、関係が切れぬように、信頼している人が消えないようにと願います。

♡子どもたちの貧困、心の悩み等、初めて知りました。それに対して支援事業を起業されていることにもびっくりしました。若い方なのにと感動しました。ありがとう！

◆心を豊かに彩る講座3 12月21日(水) 【人権課題：様々な人権をめぐる課題】

「人生100年時代、まだまだこれから…！」

倉敷芸術科学大学 客員教授 濱家輝雄氏



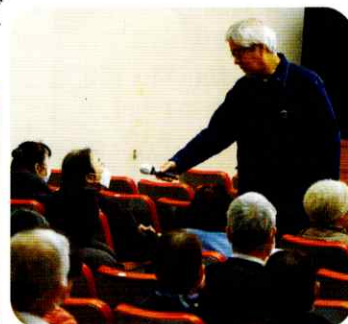
歌あり笑いありの楽しい講演で、参加者からは「元気が出た。」「勇気もらった。」という感想が多く寄せられました。濱家氏の話には、これからの生き方についてのヒントがたくさん含まれていました。暮らしやすい地域をつくるためには、まず一歩踏み出すことで周りの人とのコミュニケーションを図り、絆をつくっていくことがとても大切だということをお話いただきました。

参加者の感想

♪人生を全うするためにコミュニケーションをどのようにとればよいか、参考になりました。思考を深めるとともに、現実をとらえて楽しく学ぶことができました。

♪楽しい会話の中で、重い言葉がいろいろ語られ、胸を打たれました。勇気が湧いてきました。

♪自分のことで精一杯の今ですが、一歩踏み出して、人とのつながり、かかわりをもつことで、自分が豊かになるのだらうと思いました。



なかよしいっぱい水小っ子

今年度、本校では「異学年との交流」を大きな柱として7月と12月に校内人権週間を実施しました。7月には、新たな取組として、縦割り班での「似顔絵メッセージ交換」を行いました。異学年でペアになり、互いに顔を見合い話をしながら和やかな雰囲気の中でメッセージカードを仕上げ、交換しました。自分へのメッセージカードを読んでいる時には、みんな笑顔いっぱいになりました。12月には、校内人権週間に向けて代表委員会で「みんなで相手を思いやり、ともに心をつないでいこう」というスローガンを決めました。そして、スローガンをもとに、各学級で人権週間のめあてを考えていきました。週間中には、「なかよし集会」「児童同士でのGBチケットを贈り合うこと」「先生からの各学年のすてきなところの紹介」「図書委員会の読み聞かせ」などを行いました。その中でも「なかよし集会」は、3年ぶりに全校で集まって会を行いました。学級での人権週間のめあて発表、全校合唱、クイズ、先生からの友達と仲良くするコツ紹介など、とても心温まる会ができました。最後に児童一人ひとりが1週間の振り返りをカードに記入しました。「他の学年の友達を誘って遊ぶことができたよ。」「他の学年の友達のよいところをたくさん見つけてGBチケットを書くことができたよ。」「人権週間のめあてを守ることができたよ。」などの感想が多かったです。

今年度の人権週間で、優しい気持ちが児童一人ひとりに育っていているということを実感することができました。今後も教職員、

児童ともによいところをたくさん見つけ、もっとなかよしいっぱいの水小っ子を目指していきたいと思ひます。



「おもいやりいっぱい」の四福小

本校では、11月にPTA 人権教育講演会を行いました。講師にシンガーソングライターの森源太氏をお迎えして、「第四福田小学校の一人ひとりの人生が、自分に生まれてきてよかったと思える幸せなものであるために」と題して、講演をしていただきました。時折、弾き語りを交えながら人生について熱く語る姿に、参加した高学年の児童も思わず引き込まれているようでした。子どもたちが、これからの人生について考えるよいきっかけとなりました。

11月の最終週には、「おもいやりいっぱいの四福っ子になろう」を目標にした、第2回校内人権週間がありました。週の初めには、「なかよし会」と題して、各学年の人権週間の目標を発表したり、委員会の子どもたちが人権に関するクイズを出したりすることで、人権意識を高めてスタートすることができました。

週の途中には、教員による絵本の読み聞かせや、いじめに関する映像を見るなど、子どもたちは様々な活動を通して自分事として考えることができていました。

また、ハートのカードに「友だち（上級生や下級生を含めた）のよいところ」と「これからこうしていこうという決意」を書いて模造紙に貼っていく「ハートフルロード」という活動を行いました。友だちのよい行いを見つけてカードに書き、それを台紙にどんどん貼っていく子どもたちの姿が見られました。「友だちのよいところをたくさん見つけられてうれしかった。」といった感想も多く、学校中が温かい気持ちに包まれたような一週間でした。



差別について考える

倉敷市立水島小学校 6年 石山 友貴

差別

人権とは、人が自由に考え、自由に行動し、そして周りの人から大切にされる権利のことです。でも、多くの周りには、その反対の差別や人権侵害がまだまだ多くあります。最近の出来事から、あらためて差別について考えてみました。

一つ目は、新型コロナウイルスについてです。初めてニュースで知った時は、「すぐ収まる病気なのかな。」と軽く考えていました。でも、感染が広がるにつれて、ニュースでも感染者に対する差別が報道されるようになりました。ニュースをよく見ていると、「ウイルスは怖い。」「自分はなりたくない。」「という不安な気持ちが差別の原因になっていることに気がつきました。不安な気持ちがあっても、それを理由に、病気の人を差別するのは、おかしいとぼくは思いました。」

二つ目は、学校の授業で、戦争中に被爆された方の体験を聞いたことです。話を聞くまでは、被爆してみんなから心配される立場にあるから、差別からは遠い存在だと思っていました。でも、体験を聞いてみると、被爆したことを理由に、悪口を言われたり、石を投げられたりといったいじめの体験をされていきました。「自分の生活に差別がつきまといっている。」ということに気づき、ぼくは苦しい気持ちになりました。

病気の感染も被爆の体験も、当事者にとってはそれだけでつらく苦しい出来事です。さらにそのことが原因となって、周りの人から差別を受けるのは、二重の苦しみになります。僕は、二重の苦しみを生むような、弱い立場の人を差別するような、そんな人にはなりたくないです。だから、これから、生活の中で、友達や家族との関わりの中で、相手を傷つけないように、言葉や行動に気をつけていきたいと思ひます。



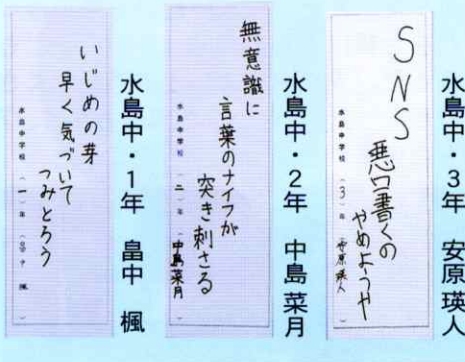
みんなで考えよう。みんなに伝えよう。



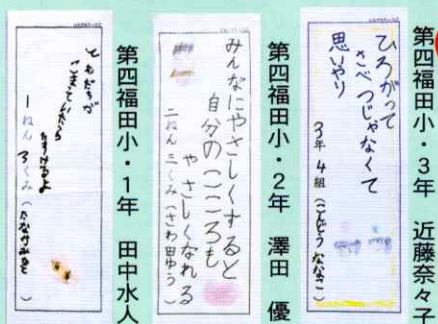
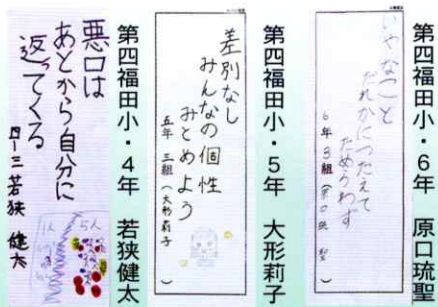
水島中学校



水島中・1年 樋上虹太



第四福田小学校



ひまわり賞が決まりました!

10月15日(土)・16日(日)の水島公民館祭に合わせて、水島小・第四福田小・第五福田小・水島中の各学校から出品された人権ポスター・標語を展示しました。ご来館いただいた方々に「一番心に残った作品」を投票していただき、『ひまわり賞』を決定しました。

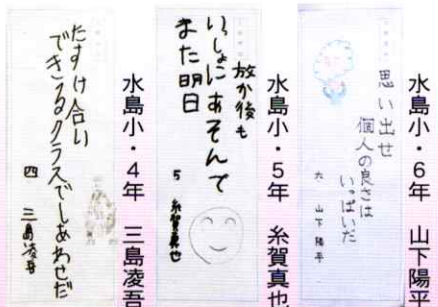
462名の方の投票により、ポスターは第四福田小学校6年・市朱莉さん、標語は水島小学校2年・平松美咲希さんの作品が選ばれました。2人の作品はもちろん、たくさんの力作があり、来館者の心を引き付けていたようでした。



水島小学校



水島小・4年 加藤心歩



第五福田小学校



第五福田小・5年 小野桃羽

